

日本の家族の役割分担にびっくり。

交換教授の見たくもと。



デイーン・ドレンク
(モンタナ州立大学準教授)

去年の九月、交換教授として来熊しました。専門は財政学で、投資問題が私の研究テーマです。熊本については、モンタナ州との姉妹提携の関係で、知り合いの先生がこちらに来たりしていたので、大変興味をもっていました。

米日前、日本の人口密度の高さに驚いたのですが、ここ熊本に限る限り、それ程過密でもないし、うまくバランスがとれているように思います。モンタナ州は日本と同じくらいの面積の割に人口が少ないので、熊本とは比較しにくいですが、熊本はむしろシカゴなんか似ている感じです。モンタナ州立大のあるボーツマンは人口がたった三万人しかいないんですよ。その代わり、モンタナは大自然に

はじめてです。その歯ざわりの良さ、豊富な甘い果汁。フルーツに目のない私はいっぺんに「荒尾ナシ」のファンになってしまいました。このすばらしい味については、熊本にきていた先生たちから聞いています。

熊本の生活で、車や家のサイズ、宗教、言葉の違いにはさほど驚きは感じません。あの程度の予備知識があったからでしょう。ただ一つだけ実際に来て大きな違いを感じました。それは、熊本では、男性は仕事に一所懸命、学生は勉強に夢中、主婦は教育、家事に専念といったように、はっきりと家族の役割が分担されていることです。(もちろん例外はありますが)

こちらに来てから食事が楽しみなこともバラエティに富んでいるのです。目で楽しみながら味わえる和風料理に加え、西洋料理(フランス、イタリア、ロシア料理など数え上げればきりがなし)や中華料理が日本人の口に合うように改良され、「庶民の味」として定着しているのがいいですね。また、熊本のフルーツの美味しいこと。先日、「荒尾ナシ」を賞味する機会に恵まれたのですが、あれ程大きなナシにお目にかかったの



家族とのコミュニケーションが一番大切なこと。お聞きしたい先生たちから聞いています。

新しい環境にも慣れ、私の生活リズムはモンタナの時と同様、大学のオフィスや家の書斎で仕事をしたり、学外に出て新しい友達を作ったりといった具合です。

熊本に来た日本のサラリーマンはみな焼酎党になって帰るそうですが、私はもともと下戸で、酒はワインを嗜む程度。せっかく焼酎の里にやってきたのに実に残念なことです。

熊本商科大学 熊本短期大学は昭和五十七年七月にモンタナ大学システム(総合大学、四里科大学)及び私立大学と姉妹校となり、その後留学生の交換など交流が続いている。去年九月、教員交換の第一号として、モンタナ州立大準教授デイーン・ドレンク氏が熊本商科大学で講義を担当することになった。滞在期間は一年。熊本商科大学からは、中野裕治助教授がモンタナ州立大へ派遣されている。

熊本商科大学構内で

市民の手で、水俣をイメージアップ。



松本 博幸

水俣青年会議所
ふるさとづくり委員長

海の「湯の児温泉」と山の「湯の鶴温泉」、そしてリアス式海岸の美しさ。水俣の地名の由来となった水俣川の水の豊かさ。このように自然環境に恵まれた水俣で、奇病といわれていた病気が公害病に認定されて、既に二十数年を経過しようとしています。未だ様々な問題が残されています。

私たちが地域のマイナスイメージを背負っていかねばならないでしょう。しかし、自分たちの子供の代までこれを受け継がせたくはありません。都会へ出て、「私のふるさは水俣です」と胸を張って言えるように、水俣の将来を市民みんなで考える時期にきています。

水俣青年会議所が発足して十四年目を迎えました。明い、住みよい町づくりをするにはどのような運動を試みています。環境庁長官へ水俣の病名変更を陳情したこともありましたし、毎年、水俣橋の上にたくさんのコイのぼりを上げては明るさを強調するなど、イメージアップのための活動を続けています。

また五十八年から始まった中尾山公園の市民手づくりのコスモス園運動が、翌五十九年には、各種市民団体総ぐるみの運動に盛り上がり、第一回水俣コスモス祭りの開催にまでこぎつけました。

このような気運の盛り上がりの中で、昨年は国土庁から「花と緑の地域づくり」の指定を受け、さらに国際園芸博覧会の誘致構想が提案されるなど、水俣の未来が急に明るくなった

これからの時代は、市民自らが自分たちの住む身近な公園の花づくりをはじめ、排水溝や道路掃除など、積極的な奉仕活動をする時代になる

水俣青年会議所は、若い力を結集し、町づくりや国際園芸博覧会のために最大限の努力と勉強を重ね、市民運動発展の起爆剤になりたいと思

県民のみならず、暖かい御支援と御協力をお願いします。

〈略歴〉

- 昭和24年11月9日 水俣市生まれ
- 昭和43年3月 県立水俣工業高校建築科卒業
- 北九州市の建設会社に11年間勤務
- 昭和54年 水俣へ帰り、家業(工務店)を継ぐ
- 昭和55年 水俣青年会議所入会
- 昭和58年 青少年開発委員長
- 昭和59年 ふるさとづくり委員長

